

東京教区 同朋社会推進ネットワーク通信

しゃばネット

教法からの呼びかけと、現在の課題からの問いかけの交差する一点に、身をおく

「いのち」が一番大事

人間は無力なもので、できることはただひたすら逃げること。
生きてこそ、無事に生き残ってこそ、次にできることが何かある。
まずは無事であること、家族の安全を図ること、
活動はそれからである。
いかに支援をするか、炊き出し訓練や傾聴学習を、、、
といったことを考えがちであるが、
それは支援する側の目線であって、
自分が被災者になることも念頭において考えていただきたい。
災害に備えるということは、そういうことである。
自分が災害に遭った時にどうするか、
自分や家族がどうなるかを第一に考えていただきたい。

木ノ下 秀俊（東日本大震災現地復興支援センター担当職員）

『ご門徒さんと考える〈寺院〉のための災害対策ハンドブック』より

2022. 4

Spring

No. 135

「防災対策アンケート」を基にした災害演習

私が被災したとき お寺で出来ることを考える

2022年3月4日(金) 真宗会館+Web会議サービス「Zoom」にて開催

ステップ1 話し合いましょ

お寺でできることを考えてみましょう

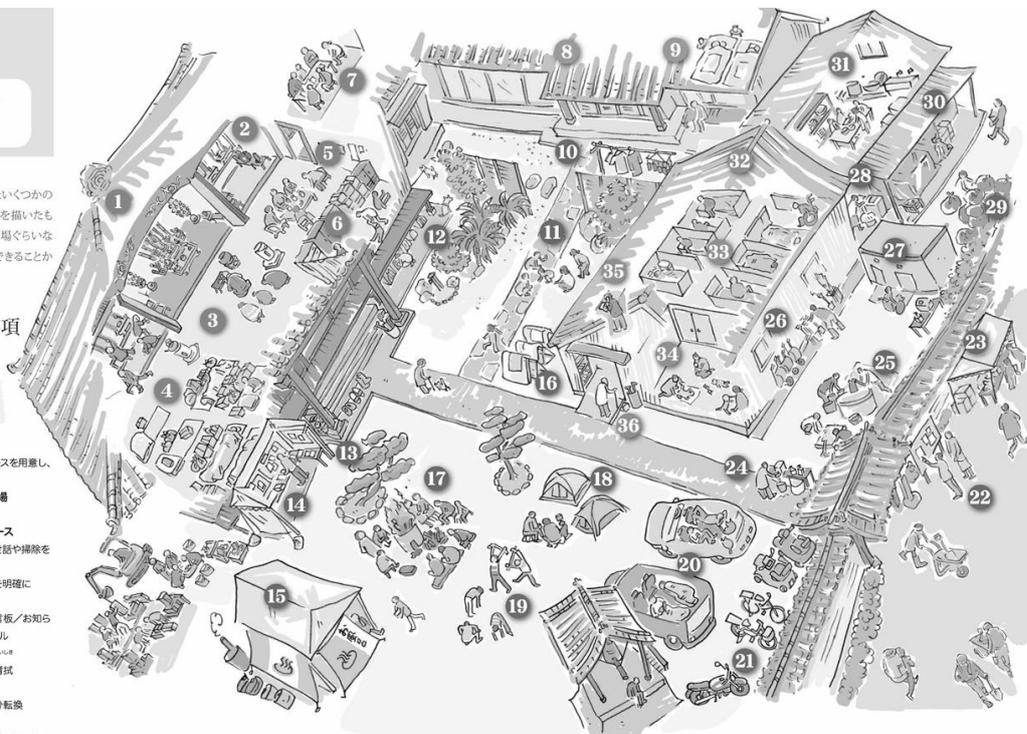
もしもお寺に、地域の人が避難してきたら…。この絵は、過去の災害時に避難所として開放したいくつかのお寺の様子を取り、実際に対応したすべてを描いたものではありません。「トイレをお貸しするだけなら」「駐車場くらいなら」など、決して無理をせず、自分たちのお寺にできることから考えてみましょう。

お寺で考えられる災害時の役割事例・留意事項

※この絵は災害発生後1～2週間の様子です。(電気・使用可能 都市ガスや水道:停止)

※感染症対策として、密接・密着・密接の3密を避け、手洗い・消毒・マスク着用などを徹底してください。感染の疑いのある方が居た場合は、病院へ搬送してください。

- ① 本堂
避難生活スペース
- ② 法名輪・過去帳
・ご遺骨など
宗教を問わず避難者から預かり、安置
- ③ 合掌・礼拝・黙行
手を合わせる/心を静める/お勤めをする
- ④ 避難生活スペース
通路の確保/整理整頓
- ⑤ 食事・お茶会スペース
避難者同士の交流/情報交換/息抜き
- ⑥ 家財道具の一時預かり
着替えなどの目録にも
- ⑦ リーダー会議
避難所の運営/情報共有
- ⑧ 庫裡(住まい)
寺族のプライベートスペースの確保も
- ⑨ 保健室
病人の静養/感染者の一時的な隔離場所
- ⑩ 物干し場
女性専用スペースを用意し、目隠しをする
- ⑪ 子どもの遊び場
ストレス緩和
- ⑫ ベットのスペース
朝の室内同士で世話を焼く
- ⑬ 下駄箱
土足禁止の境を明確に
- ⑭ 掲示板
安否情報/伝言板/お知らせ/スケジュール
- ⑮ 仮設風呂
入浴/足湯/清拭
- ⑯ 布団干し場
衛生管理/気分転換
- ⑰ 憩いの場
情報交換/傾聴/心のケア
- ⑱ ボランティアの受け入れ
宿泊場所の提供のみの場合もある
- ⑲ 体操(ラジオ体操・ヨガなど)心身のリフレッシュ
- ⑳ 駐車場
駐車スペースの提供/車中泊
- ㉑ 自転車・シルバーカー置場
整列駐車
- ㉒ 外掲示板
地域への情報提供(給水、炊き出しなど)
- ㉓ 食事・物資の提供
地域の方への配布
- ㉔ 手洗い場
衛生管理/感染症対策(手洗い/うがい/消毒)
- ㉕ 井戸水・自家水道
飲料水、生活用水の提供/洗濯場としての活用
- ㉖ 資機材置場
復旧、片づけのための道具
- ㉗ 外トイレ
汚物処理、清掃のルール決め
- ㉘ 洗濯場
時間や順番のルール決め
- ㉙ ゴみ置場
分別する
- ㉚ 支援物資置場
物資の受け入れ/仕分け
- ㉛ 調理スペース
炊き出し/自炊の場として解放する
- ㉜ 門徒会館
要配慮者の避難生活スペース
- ㉝ 簡易ベッド
段ボールやビールケースで自作可能/段ボールベッドの購入
- ㉞ 母子・乳幼児スペース
授乳/着替え/リラクセス
- ㉟ 電話・公衆電話
寺院電話の貸し出し
- ㊱ スロープの設置
ベニヤ板などで段差解消



『ご門徒さんと考える〈寺院〉のための災害対策ハンドブック』より

栗田 暢之 氏 プロフィール

認定 NPO 法人レスキューストックヤード (RSY) 代表理事
真宗大谷派岐阜高山教区第 1 1 組・仁成寺住職
真宗大谷派組織部嘱託職員・宗派ボランティア委員会担当

震災がつなぐ全国ネットワーク (震つな) 代表
東日本大震災支援全国ネットワーク (JCN) 代表世話人
災害ボランティア活動支援プロジェクト会議 (支援 P) 幹事
愛知県被災者支援センター長
東日本大震災被災者支援ボランティアセンターなごや運営委員
認定 NPO 法人全国災害ボランティア支援団体ネットワーク (JVOAD) 代表理事



同朋社会推進ネットワーク委員

流山開教所 不二門 至浄

同朋社会推進ネットワークでは、災害ボランティアについての話し合いや研修会を重ねる中で、東京教区内が被災地となり、私が被災者となった時にはどうするのか、またお寺で何が出来るのかを考えようと、講師に NPO 法人レスキューストックヤード代表理事の栗田暢之氏をお迎えし、研修会を開催しました。今回は、オンライン開催となったため、参加者には、演習用の非常食、非常用トイレ、アルミシートを事前にお届けしました。

講義では、昨年秋に実施した「防災対策アンケート」を基に、宗務所組織部発行の『ご門徒さんと考える〈寺院〉のための災害対策ハンドブック』、『コロナ禍におけるお寺への避難について』を確認しながら、災害支援活動の経験を通してお話いただきました。

お話しの中で、お寺は支援活動の拠点として期待され、それには、地域やご門徒、なにより家族と、災害が発生した時にできること、用意しておくもの、地域の人的物的資源の確認など、自分たちのお寺で何が出来るのかを話し合っておくことのほか、社会福祉協議会や各支援団体との連携の重要性も指摘されました。

避難所として解放された正徳寺様（岩手県陸前高田市）の事例では、大規模に解放できるスペースがあり150人もの避難者を受け入れられました。当初は、坊守さんを中心に、難を逃れたご門徒さんの協力を得て、避難所を運営されましたが、避難者名簿を作成し役割分担をして、

意識的に避難者に任せていくようになりました。スペース作りでも工夫があり、生後15日の乳幼児や高齢者への配慮など、避難生活の中でも守るべき注意点があることを知らされます。規模の大小や避難所がお寺ではなくても、自身が避難者となった場合には、それらの注意点を確認して避難所作りに協力できるようにしたいと思います。

質疑応答や全体討議でも貴重な意見が交換されました。みんなで話し合い、考えることで、思いもなかったことに気づかされることがあることを大切に思います。

また、同朋社会推進ネットワーク委員による演習では、委員自身の被災経験から、特に必要と考えられる発電機、非常食、非常用トイレの紹介と実演が行われました。頭の中では、被災したときにこんなものが必要だと想像していたとしても、実際に手に触れて使用してみるとわかることがあると実感します。今度は体験型の災害演習で、みなさんと共に防災意識を深め、教区内の連携を構築してまいりたいと思います。



東京教区災害ボランティア
正徳寺（岩手県陸前高田市）での炊き出し
2011年4月22日



『ご門徒さんと考える
〈寺院〉のための災害対策ハンドブック』
(発行：宗務所組織部)

『コロナ禍におけるお寺への避難について』
(発行：宗務所組織部)

※『ご門徒さんと考える
〈寺院〉のための災害対策ハンドブック』別冊

本山ホームページ「災害救援」

(<https://www.higashihonganji.or.jp/saigai/>)
よりダウンロードできます。どうぞご活用ください。



編集後記：私の地元の社会福祉協議会では「災害ボランティア登録(プレ)」が行われていました。被災地のボランティア受け入れ情報や、災害ボランティアに関する研修や訓練についての情報が送られるそうです。早速登録。

有事の時には日頃からのつながりが大切です。自分に何ができるか。お寺で何ができるか。地域の人たちと何ができるのか。宗派として何ができるのか。平時だからこそ、考え動き、構築していく必要があると思います。(本田彰一)

発行

同朋社会推進ネットワーク
(東京教区教化委員会内)
東京都練馬区谷原 1-3-7
電話 03-5393-0810
eメール office@ji-n.net

【メールニュース】

同朋社会推進ネットワークでは定期的に「メールニュース」を配信しています。右 QR コードのメールアドレスにお申込みください。



office@ji-n.net